

カイラシュ・サティヤルティ氏招へい事業報告

2014 年ノーベル平和賞受賞者カイラシュ・サティヤルティ氏とともに
各地で児童労働問題解決への行動着手を提唱



2016 年5月13日～16日の間、カイラシュ・サティヤルティさん(2014 年ノーベル平和賞受賞者)を日本に招へいし、2千人を超える方々へ児童労働の問題を伝え、解決のためのアクションを呼びかけることができました。

カイラシュさんは、ACE 設立のきっかけとなった 1998 年の「児童労働に反対するグローバルマーチ」の創始者であり、いわば ACE の生みの親。ACE の NPO 法人化記念シンポジウム等、これまで何度も来日していますが、今回はノーベル平和賞受賞後初の来日となりました。かなり前から要請しやっと実現した今回の来日。世界中を飛び回るカイラシュさんを4日間も独占し、計30件の講演、面会、インタビューを受けていただきました。

今回の招へいの大きな目的は「児童労働の問題を、政府、企業、市民に伝え、解決に向けたアクションを起こす人を増やす」こと。カイラシュさんは来日中に 2,192 人の方に直接語りかけ、政財界のリーダー、これからの時代を担う若い世代や子どもなど様々な方々と語り合い、児童労働をなくすための行動を呼びかける力強いメッセージを残していきました。報道は53件(2016 年5月～7月末)に上り、NHK などのテレビや AERA の表紙を飾るなど、多くの方に目にしていただけの媒体で紹介いただけたことは、児童労働の問題をより多くの方に知っていただく貴重な機会となったと思います。また今回のカイラシュさんの来日をきっかけに、ACE が事務局を務める児童労働ネットワークとして、政府へ取り組み強化を求める署名を厚生労働大臣、文部科学大臣に提出できたことも、大きな成果でした。今回の招へい事業にご協力いただいた皆様へこの場をお借りしてあらためて心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

代表 岩附由香

各種イベント報告

カイラシュさんの来日期間中に行った主な活動の内容をご紹介します。(順不同)

公開シンポジウム「私からはじまる児童労働のない未来」で3つのDを唱える

ACE、児童労働ネットワーク、NGO-労働組合国際協働フォーラム 児童労働グループの三者共催で、5月14日(土)に来日記念公開シンポジウム『私からはじまる児童労働のない未来』～ノーベル平和賞受賞者カイラシュさんの問題解決の方法とは?～を文京学院大学本郷キャンパス仁愛ホール(東京都文京区)にて開催しました。今回のシンポジウムは、過去に行われた共催イベント史上最多となる650名以上の方にご来場いただき、3時間のシンポジウムを通じて児童労働のない未来に向けて自分たちにできることを伝え、考える機会としました。

第1部では、「社会問題の解決策のつくり方」と題して、カイラシュさんによる基調講演を行いました。カイラシュさんは児童労働の問題解決のために何かしたいがなかなか行動を起こせずにいる私たち一人ひとりに向けて、3つのD「Dream, Discover, Do」という希望に満ちたキーワードを教えてくださいました。

「Dream:何かを変えたいなら大きな夢を持とう Discover:自らの能力、力を見いだそう Do:今から行動を起こそう」

私たちの世界は繋がっていて、児童労働はグローバルな問題であること、そして私たちが行動を起こすことが大切で意義あることであり、この先若い世代の人々には特に、心を開いてこの世界を守ってほしいということを語りかけてくれました。そして最後に3つのD「Dream, Discover, Do」を会場の皆さんと一緒に唱え、「日本の若い皆さん、世界のリーダーになってください」という言葉でスピーチは締めくくられました。

第2部では、「消費者、学生、企業、市民社会が児童労働のない未来にできること」というテーマでパネルトークを行いました。このトークにはカイラシュさんに加え、消費者の立場としてお茶の水女子大学附属高校教諭の葭内ありささん、学生の立場からは慶應義塾大学院在学中でモデルの鎌田安里紗さん、企業の立場には株式会社イースクエアのピーター・D・ピーダーセンさんをお招きし、市民社会としてはACE代表の岩附由香が登壇しました。児童労働を終わらせるために、それぞれの立場でできるアクションにはどのようなものがあるかについて、熱いトークが繰り広げられました。

最後に、登壇者と来場者の全員で「児童労働 NO!」の思いを込めたレッドカードの記念撮影を行いました。それぞれがカードと共に、児童労働に反対するという大きな意志を持ち、会場の思いが一つになった瞬間でした。

本シンポジウムは都内で行われる唯一の公開イベントとして、多くの取材を受け、その様子は新聞やテレビニュースを通じて広く多くの人に伝えられ、カイラシュさんのこと、児童労働という問題を知ってもらう機会となりました。本シンポジウムに足をお運びくださった皆さま、実施にご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

*共催: 特定非営利活動法人ACE、児童労働ネットワーク、NGO-労働組合国際協働フォーラム 児童労働グループ

後援: 外務省、文部科学省、厚生労働省、独立行政法人国際協力機構、ILO 駐日事務所、UNDP 駐日代表事務所、

一般財団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン、特定非営利活動法人国際協力NGOセンター、日本ILO 協議会、日本労働組合総連合会

助成: 国際交流基金日米センター、公益財団法人庭野平和財団

協力: 世界の人びとのための JICA 基金

(順不同)



©Eguchi Naohiro



ACE チャリティパーティーで「子どもに希望を」と呼びかけ

カイルシュさんのノーベル平和賞受賞後初来日を記念し、5月15日(日)夜に帝国ホテル(東京都千代田区)にてチャリティパーティーを開催しました。今回の来日中に実施された多くのイベントのなかでは唯一の ACE 単独主催イベントでしたが、開催まで多くの方にお力添えをいただき、当日は与野党議員の皆さまや、ビジネス界のリーダーの方々など初めて ACE のイベントに参加される方にもご来場いただくことができました。また、日頃お世話になっている支援者の方々にもご参加いただき、参加者総勢 121 名の華やかな会場の雰囲気のなか、カイルシュさんから「児童労働のない世界」を実現するよう呼びかけが行われました。

カイルシュさんの来日プログラムに賛同し、ACE を応援してくださった「カイルシュ氏来日応援団」の方々を代表し、応援団発起人の1人であるコモンズ投信株式会社会長の渋澤健様から「おとなというのは大きな人と書く。だから、大きな夢を持つことができるはず。」という言葉で乾杯の挨拶をいただきました。また、その後に、塩崎恭久厚生労働大臣からスピーチが行われました。

パーティーの目玉のひとつ、カイルシュさんと経営ストラテジストの坂之上洋子さんのトークセッションでは、命の危険を冒しながらも児童労働から子どもを救うカイルシュさんの活動を映像を交えて紹介しつつ、奥さんとのけんかの時は謝るのはいつもカイルシュさんという親近感の沸くエピソードが語られました。「子どもに自由が与えられた時、そこに希望があるのです。」多くの子どもに自由を与えてきた経験を持つからこそ重く響くカイルシュさんの言葉がありました。

今回、帝国ホテルのような会場を使用しての大規模なパーティーの実施は ACE としては初めての試みでありましたが、株式会社ソニー・デジタルエンタテインメント福田淳社長、坂之上洋子さん、力強い歌声を披露してくださった応援団の Ray Yamada さん、パーティーのお土産でもある ACE のガーナの支援地産カカオを使ったチョコレートを作ってくださったショコラティエ パレド オールの三枝俊介シェフ、応援団発起人・応援団のみなさんのお力添えのおかげで無事に終えることができました。



パーティーご協賛企業・個人:

株式会社 IMAGICATV、有限会社ウエストフィールド・コンサルティング、英会話教室 Lesson4U、Ena Communication Inc.、M&Partners International、株式会社神奈川ナブコ、坂之上洋子様、株式会社ソニー・デジタルエンタテインメント、株式会社立花商店、谷川俊太郎様、Nakajima Consultancy Services LLP、パンローリング株式会社、株式会社ファンドレックス、特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン (順不同)

SDG ターゲット 8.7 戦略円卓会議～海外ゲストと共にステークホルダーの役割を共有

来日初日となる5月13日(金)に ACE 初の英語での国際会議「Roundtable Meeting: Strategies to End Child Labour by 2025(2025 年までに児童労働を終焉させる(SDG ターゲット 8.7)戦略円卓会議)」を庭のホテル(東京都千代田区)で開催しました。この会議は「持続的な開発目標(SDGs)」の目標 8.7 の「児童労働の撤廃」に向けて、各国での経験の共有やステークホルダーによる役割について議論することを目的としたものです。

カイラシュさんはじめ、米国から「カイラシュ・サティヤルティ子ども財団」「Child Labor Coalition」、オランダから「児童労働に反対するグローバルマーチ」、日本から国際協力機関、政府、企業、労組、NGO、有識者など各分野のステークホルダー18名(その他オブザーバー11名)が出席し、グローバルな視点から児童労働の現状や問題解決に向けた取り組み、ステークホルダーの役割等について情報共有、意見交換が行われました。児童労働問題における重要なステークホルダーが一堂に会し、目標の達成に向けた取り組みのための共通認識が生まれたことは大きな成果と言えます。

*主催: 特定非営利活動法人ACE、共催: Child Labor Coalition(米国)、助成: 国際交流基金日米センター



G7 倉敷教育大臣会合～児童労働問題解決への連携を訴え

文部科学省の招きにより、5月14日(土)午前、岡山県倉敷市で開かれた G7 教育大臣会合に先立つ公開シンポジウムで基調講演を行いました。教育の機会を奪われた子どもたちを救うために、市民社会、企業、国が連携して問題解決に当たる必要性を訴え、各国の教育大臣に責任を果たすよう求めました。各国大臣からもそれに応えるかたちで意思表示があり、会合の成功に貢献しました。

*主催: 文部科学省



被災地の宮城県山元町を訪問し、子どもたちと交流

5月15日(日)午前中は、東日本大震災の被災地で ACE が支援を行ってきた宮城県山元町を訪ね、被災した小学校の視察と、イチゴ農園訪問、町民との交流イベント「被災地から世界に繋がろう!親子で描く、これからの社会」を開催しました。会場の GRAイチゴワールド(宮城県山元町)には、山元町に暮らす子どもやその家族たち約80名が集まりました。イチゴ農園経営を行う GRA 代表岩佐大輝氏との対談では、復興までの道のりや、カイラシュさんが児童労働の現場から子どもたちを救い出した経験、世界と私たちとのつながりについて語り合いました。カイラシュさんは「ここにいるみんなは強い。でも、その強さを自分や家族のためだけではなく、世界の他の人たち、子どもたちのために使ってほしい」と伝えました。その後、子どもやおとなそれぞれが大切に感じているものを画用紙に描くワークショップやイチゴ狩りも行いました。

*主催: 特定非営利活動法人ACE、協力: 株式会社 GRA、山元町教育委員会生涯学習課
助成: 公益財団法人庭野平和財団



宮城学院で思いやりと連帯を呼びかけ

5月15日(日)午後には、宮城県仙台市の宮城学院女子大学講堂で開催された「宮城学院創立130周年記念ホームカミングデー」に招待され、カイラシュさんと事務局長白木朋子による特別基調講演が行われました。カイラシュさんは、「思いやりの心で世界を救う」と題した講演のなかで、卒業生や現役の中高生約1,000人が耳を傾けるなか、子どもたちの強制労働の実態を紹介し、解放に向けた行動を呼びかけました。パキスタンでサッカーボールを作る10歳ぐらいの男の子に夢は何かと尋ねたら「いつかこのボールを蹴ってみたい」との答えが返ってきた悲しいエピソードを紹介したあと、「同じ地球に住む自分たちと同じチャンスがあるべきだ。思いやりの気持ちをもってつながり、世界に広げよう」と語りました。白木は、ガーナの活動のなかで子どもを人身売買から救出したときの経験などを話しました。

*主催: 宮城学院同窓会



文部科学大臣と会談、新たな取り組みを提案

5月16日(月)は、文部科学省に馳告大臣(当時)を訪ねました。大臣からは14日に開かれた倉敷でのG7教育相会合での基調講演に対して感謝の言葉があり、カイレシュさんから、このような会議を通じた「持続可能な開発目標」への包括的なアプローチを期待する旨の発言がありました。

さらに、カイレシュさんは政府がリーダーシップを発揮して取り組んでいくことの重要性を強調し、今後の展開を計画している世界的なムーブメント「100 million for 100 million」(世界の1億人の富裕層の若者が1億人の貧困層の若者を支援する構想)について提案したところ、馳大臣は早速、実務担当の補佐官につないでくださり、説明の時間をいただきました。補佐官は大いに興味を持たれ、前向きな姿勢を見せてくださいました。



逢沢一郎議員を表敬訪問、「日本として責任を果たしたい」との思いを共有

5月16日(月)に逢沢一郎衆議院議員を訪ね衆議院第一議員会館で面談しました。逢沢議員は14日にG7教育相会合が開かれた岡山県選出の議員であり、カイレシュさんの基調講演の内容を含め、教育相サミットのことは地元メディアなどを通じて詳しく把握されていました。逢沢議員は世界的な視野で難民や虐げられた人々の問題に思いを馳せ救済を模索されており、児童労働の問題を巡っても、カイレシュさんとの思いを共有されていました。



「日本にはリーダーシップを果たす能力も責任もある」と議員懇談会でアピール

議員懇談会「カイレシュ・サティヤルティ氏と教育・児童労働を語る会」が、ACEも参画する児童労働ネットワーク、教育協力NGOネットワークと共催で、5月16日(月)に衆議院第二議員会館において行われました。衆議院本会議の直前の多忙な時間を縫って駆けつけいただいた12名の国会議員を含め50名を超える会議となりました。カイレシュさんは「最悪の形態の児童労働をなくすために日本がリーダーシップを発揮してほしい」「教育に対するODAを増してほしい」「サプライチェーンにおける企業の責任を政府主導で提起してほしい」と提言しました。国政のリーダーの皆さんに何ができるか考えてもらうきっかけを作るという当初の目的が功を奏し、議員の中にはカイレシュさんの話に感銘を受け、行動を決意する人もいました。

このイベントは高校生が国会議員と一緒に学ぶという「世界一大きい授業」との合同イベントで、開会前には生徒たちと和やかに談笑するカイレシュさんの姿が見られました。

*共催：児童労働ネットワーク、教育協力NGOネットワーク
協力：特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター
助成：公益財団法人庭野平和財団
後援：アムネスティ議員連盟、ILO議員連盟、チャイルドライン支援議員連盟



ゲリラシネマ上映イベントのトークショーに登壇

5月16日(月)夜、「ゲリラシネマ〜『THE TRUE COST』特別上映イベント〜」が、ウェブメディア「Be inspired!」を編集・配信するHEAPS.株式会社主催のイベントとして行われました。ACEへの寄付となるクラウドファンディングで、フェアトレードTシャツ付き参加チケットを購入した、おしゃれに関心の高い参加者180名が集まりました。ファッション業界に潜む「搾取と矛盾」を映し出したドキュメンタリー映画『ザ・トゥルー・コスト〜ファストファッション 真の代償〜』の上映と、カイレシュさん、ACE代表岩附由香、コピーライターで電通ソーシャル・デザイン・エンジン代表の並河進さん、エシカルファッションブランドINHEELS代表の岡田有加さん、シンガーソングライターの尾崎裕哉さんのトークショーを通じて、児童労働の問題なども抱えるファッションの真実と向き合い「本当のおしゃれ」について考えました。

*主催：HEAPS.株式会社



「値段のないレストラン」

5月16日(月)夜、ゲリラシネマと並行して、HEAPS.株式会社がACEの支援を目的に企画した「値段のないレストラン」が、約100名の参加者を迎えて開かれました。食事の値段は参加者が自由に決め、その金額が寄付されるといふもので、カイレシュさんとACE代表の岩附由香がスピーチを行いました。豊かな発想で新しい世界を切り拓いていくエネルギーに触れることができたのは、ACEにとっても貴重な体験になるとともに、よりよい未来を創るための思いを多くの方々と共有することができました。たくさんのご寄付をいただき、心より感謝申し上げます。

*主催：HEAPS.株式会社



カイラシュさんの素顔

●プロフィール

1954 年1月11日、インド・マディヤプラデシュ州ビディシャ生まれ。
「カイラシュ・サティヤルティ子ども財団」創設者
「児童労働に反対するグローバルマーチ」名誉代表
2014 年ノーベル平和賞受賞者

1981 年から長年児童労働問題に取り組み、子どもの救出やリハビリ施設の運営などを行うインドの NGO、BBA(子ども時代を救え運動)を創設。これまでに過酷な労働から解放した子どもの数は 85,000 人に上ります。「児童労働に反対するグローバルマーチ」の構想を提案、1998 年に五大大陸で市民を巻き込みマーチを実現。これが契機となり、1999 年に ILO の第87回総会で「最悪の形態の児童労働条約」が採択されました。「教育のためのグローバルキャンペーン」の創設者として、各国の教育支援動員を推進し、市民社会運動の成功事例をつくりました。また、児童労働のないカーペットのラベル“Good Weave”を創設し、消費者の意識啓発にも努めてきました。2014 年、マララ・ユスフザイさんと共に「子どもや若者に対する抑圧への闘い、およびすべての子どもの教育を受ける権利の保護」の功績が認められ、ノーベル平和賞を受賞されました。



ノーベル賞のメダルを掲げる
カイラシュさん

●ACE との関係

カイラシュさんは、まだ児童労働のことがあまり知られていなかった 1997 年に、児童労働をなくすための行動を呼びかける行進をしようと世界中の NGO や活動家に提案しました。それが、翌年に「児童労働に反対するグローバルマーチ」という世界的な一大ムーブメントに発展。世界 103 カ国の 1,000 団体以上が協力し、多くの一般市民も加わって、五大大陸、8万キロの距離を児童労働の廃絶を訴えて 6ヶ月歩き続けるという大きな運動が起こりました。

当時、このカイラシュ氏の呼びかけに応えようとする NGO が日本にないなか、このマーチを日本でも実現するために学生5人で立ち上げたのが当団体 ACE の設立のきっかけです。カイラシュ・サティヤルティ氏は、まさに ACE にとって生みの親のような存在であり、2005 年の ACE の NPO 法人化記念シンポジウムにも来日しました。また、ACE は「児童労働に反対するグローバルマーチ」の日本のコーディネーターとして、ネットワークと連携したアドボカシー活動を展開しています。



岩附、白木らマーチ参加者たちに囲まれて

●カイラシュさんのメッセージ

「世界中のあらゆる問題はつながっている」

今の世界は四半世紀前には想像もできなかったレベルで密接につながっています。

1年365日24時間中、地球の裏側とネットでつながっている今の世界は、かつてとは全く異なる様相を呈しています。たとえば、四半世紀前に一体誰がグローバル・テロリズムの多発を想像できたでしょうか。

お互いにつながっているからこそ、経済、環境、人口の問題など、人類の抱えるどんな課題も単独で解決することは不可能で、世界的な規模で取り組まないとはいけません。

ほかの国で起きている問題を、関係のないこととして見過ごすわけにはいかないのです。

「自分にできることから始めよう」

子どもの頃に聞いた童話に、大火事になった森に向かって、水に濡れた小枝をくちばしにはさんで飛んで行くハチドリの話がでています。「そんなことをしても火なんか消せるわけないよ」と言って笑うライオンに向かって小さなハチドリは言いました。「わたしは、わたしにできることをしているのです」。

世の中を変えるためには大きな力を持っていないといけないということはないのです。友達への口コミでも、SNS への投稿、シェア、何でもいいのです。どんな小さなことでも、何かを実行することで、確実に世の中は良い方向に一步前進するのです。

メディア掲載報告 / お世話になった方々

カイラシュさんとの活動については、たくさんのメディアに取り上げていただきました。主なものををご紹介します。

テレビ

- 2016/05/14 NHK 総合 (深夜ニュース)「ノーベル平和賞受賞者 児童労働撲滅を訴え」
- 2016/05/16 NHK BS1 (世界のトップニュース)「世界の児童労働を考える」
- 2016/05/19 NHK 総合 (くらし☆解説)「エシカル消費って、何？」
- 2016/07/28 日本テレビ (news every. タネをまく人)「ノーベル平和賞・サティヤルティ氏×児童労働と闘う」

ラジオ

- 2016/05/17 りんごラジオ (りんごラジオスペシャル)「GRA で行われたカイラシュ・サティヤルティさんの講演の様様」
- 2016/05/18 J-WAVE JAM THE WORLD「児童労働をテーマにカイラシュ・サティヤルティさんに聞く」

新聞

- 2016/05/15 東京新聞「児童労働の製品 身の回りから撲滅を」
- 2016/05/15 河北新報「宮城学院女子大でノーベル平和賞・サティヤルティさん講演 思いやりの心 世界に」
- 2016/05/18 毎日新聞「カイラシュの三つの D」
- 2016/05/23 河北新報「生きる力育んで インドの活動家対談イベント」
- 2016/05/25, 27 毎日小学生新聞「サティヤルティさんのメッセージ／上 学校行けず働く子たち、下 差別だけは許せない」
- 2016/05/27 読売新聞「貧困、過激思想・・・教育で解決」
- 2016/06/10 毎日新聞「児童労働の廃絶を訴えるノーベル平和賞受賞者 カイラシュ・サティヤルティさん(62)」
- 2016/06/25 朝日新聞 (be on Saturday)「子どもの権利活動家 カイラシュ・サティヤルティさん 児童労働の根絶をめざし闘う」
- 2016/06/30 生涯教育新聞「『世界から児童労働をなくそう！』ノーベル平和賞受賞者の公開シンポジウム開催」

雑誌他

- 2016/05/25 女性自身 (2016年 6月 7日号)「あなたの無関心が子供たちの夢見る自由を奪っています」
- 2016/06/01 広報やまもと「『強い心を持って』カイラシュ・サティヤルティさん来町」
- 2016/06/15 THE BIG ISSUE JAPAN (289号)「被災地からー ノーベル平和賞 カイラシュ・サティヤルティさん」
- 2016/06/27 AERA '16.7.4号 (No.29)「不可能なことは何もない。我々はみな、勇気を持っている」
- 2016/07/01 国際開発ジャーナル「教育改善で児童労働撲滅を」

インターネット

- 2016/04/18 Yahoo!ニュース「『世界一貧しい大統領』に続き『平和の賢人』が相次いで来日」
- 2016/05/06 Yahoo!ニュース「尾崎豊の息子が登壇 社会派映画上映イベント」
- 2016/05/16 教育新聞 電子版サイト「ノーベル平和賞受賞者が講演 困窮の子らに教育投資を」
- 2016/05/19 J-WAVE NEWS「『なんでもっと早く来てくれなかったの』児童労働の現実」
- 2016/05/20 Yahoo!ニュース「『音楽を社会のために、父ができなかったことを』シンガーソングライター尾崎裕哉さん」
- 2016/05/20 Yahoo!ニュース「ノーベル平和賞受賞者のカイラシュ氏、山元町で子供たちの未来を語る」
- 2016/05/27-6/1 NewsPicks「8.5万人の子を強制労働から救い、ノーベル平和賞を受賞した男」ほか
- 2016/06/07 Be inspired!「ノーベル平和賞受賞者カイラシュ氏が説く『3つの“D”の意思』」
- 2016/07/26 日経 BizGate「日本企業はサプライチェーンで児童労働がないことに努めよ」、他



白木事務局長より掲載誌を見せられて



表紙を飾るカイラシュさん
(穂川実花さん撮影)

今回のカイラシュさん招へい事業において、たくさんの方々からご協力やご支援をいただきました。あらためて心より御礼申し上げます。

●ご支援ご協力いただいた企業・団体(敬称略、順不同)

外務省、文部科学省、厚生労働省、独立行政法人国際協力機構(JICA)、ILO 駐日事務所、UNDP 駐日代表事務所、一般社団法人グローバル・コンバクト・ネットワーク・ジャパン、特定非営利活動法人国際協力 NGO センター(JANIC)、日本 ILO 協議会、日本労働組合総連合会(連合)、児童労働ネットワーク、NGO-労働組合国際協働フォーラム児童労働グループ、NTT 労働組合中央本部、Sachiko Kuno Foundation、国際交流基金日米センター、公益財団法人庭野平和財団、世界の人びとのための JICA 基金、株式会社 GRA、山元町教育委員会、宮城学院同窓会、The Child Labor Coalition、教育協力 NGO ネットワーク、特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター、アムネスティ議員連盟、ILO 議員連盟、チャイルドライン支援議員連盟、株式会社ソニー・デジタルエンタテインメント、HEAPS.株式会社、OrangeOne 株式会社、他

●応援団発起人のみなさま (敬称略、順不同)

洪澤 健	コモンズ投信株式会社 会長	春日原 森	OrangeOne 株式会社 代表取締役社長
福田 淳	株式会社ソニー・デジタルエンタテインメント 社長	藺田 綾子	株式会社クレアン 代表取締役
久能 祐子	S&R 財団 最高経営者 兼 理事長	渡邊 智恵子	株式会社アバンティ 代表取締役
小宮 一慶	株式会社小宮コンサルタンツ 代表取締役	堀内 光子	公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム 理事長 元 ILO(国際労働機関)事務局長補

●応援団のみなさま (敬称略、順不同)

生田 涉	株式会社立花商店 取締役	吉岡 マコ	NPO 法人マドレボニータ 代表
田中 美和	株式会社 Waris 代表取締役	長坂 寿久	逗子フェアトレードタウンの会 代表理事
村田 早耶香	認定特定非営利活動法人かものはしプロジェクト 共同代表	黒田 かをり	一般社団法人 CSO ネットワーク 事務局長・理事
Ray Yamada	歌手	大橋 正明	特定非営利活動法人国際協力 NGO センター 理事
木下 彩	庭のホテル東京 総支配人	山口 真奈美	株式会社 FEM、株式会社 Control Union Japan 代表取締役
長谷川 真一	ILO 活動推進日本協議会 専務理事	鶴尾 雅隆	特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会 代表理事
並河 進	電通ソーシャル・デザイン・エンジン 代表	稲垣 貢哉	興和株式会社
末吉 里花	一般社団法人エシカル協会 代表理事	田中 夏生	英会話教室 Lesson4U 代表取締役
河北 洋一	CROSSING INTERNATIONAL INC. CEO	高津 玉枝	株式会社福市 代表取締役
中島 敬二	Nakajima Consultancy Services LLP 会長	坂之上 洋子	経営ストラテジスト/作家
谷川 俊太郎	詩人	野尻 紀代美	有限会社ウエストフィールド・コンサルティング 代表取締役
逢見 直人	日本労働組合総連合会 事務局長	原 信治	株式会社神奈川ナブコ 代表取締役社長
足立 直樹	株式会社レスポンスアビリティ 代表取締役	樋栄 ひかる	Ena Communication Inc. 学びの場のデザイナー
永井 恒男	Ideal Leaders 株式会社 代表取締役 Founder	白木 夏子	株式会社 HASUNA 代表取締役
功能 聡子	ARUN 合同会社 代表	高木 隆	株式会社東京建設コンサルタント 代表取締役
入柿 秀俊	独立行政法人国際協力機構 理事	古谷 由紀子	サステナビリティ消費者会議
内田 友紀	RE:PUBLIC Inc. 共同代表	若林 直子	ソーシャルビーアールパートナーズ株式会社 代表取締役

カイラシュさんのひとコマ



子どもたちとセルフィーで写真撮影。みんないい笑顔！



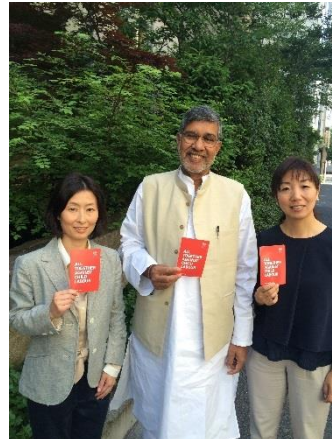
忙しい合間に SNS を更新中



イベントの合間に取材対応中



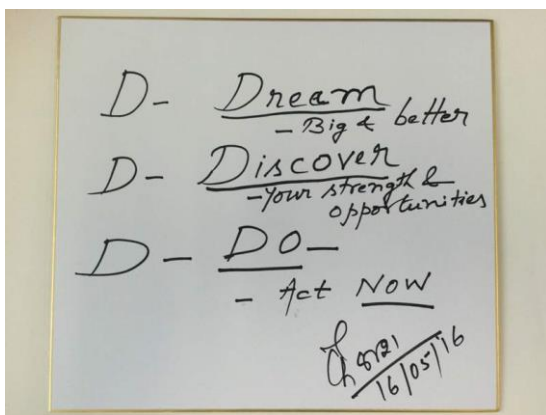
宮城県の被災地を訪問



児童労働にレッドカード！



シンポジウムの舞台ウラに潜入！



カイラシュさんからのメッセージ「3つのD」



理事、スタッフ、関係者一同で記念撮影

©Tatsuya Mizuno

※ACEは「認定NPO法人」です。ACEへのご寄付は税額控除や寄付金控除の対象になります。
詳しくは（www.acejapan.org）をご覧ください。

ACE